



小説「津軽」の像記念館(太宰治文学碑、再会公園)
太宰治の作品のなかでも、紀行文でありながら自伝的小説として評価が高い「津軽」のクライマックスは、中泊町小泊の地にあります。幼少期の子守越野タケとの再会の様子をブロンズ像と文章で再現したほか、関連する資料が収蔵されています。



十三湖岸公園(吉田松陰遊賞之碑)
湖岸の公園からは、秀麗な岩木川の姿を見ることができます。幕末の志士吉田松陰も訪れ、好風景と日記に記したことから、ゆかりの碑も建てられています。



権現崎・尾崎神社
日本海から獅子が横たわっている様に突き出た巨大な岩山で、長崎の岬とともに日本の「二大名岬」と言われる景勝地です。頂上の尾崎神社には、漁業が盛んな小泊地域の安全を祈る神社が建立されています。また、遊歩道が整備され、頂上からは北海道・岩木山・十三湖などのパノラマの景色を楽しむこともできます。



大沢内ため池公園(湧きつぼ)
芦野池沼郡県立自然公園に指定されており、周辺ではため池をサギやキジ等が多く見かけることができます。湧きつぼは、平成の名水百選に選ばれた湧き水で5月中旬から9月末頃には湧きつぼが水面から姿を現し、飲料水としてご利用いただけます。



竜泊ライン(眺舞台)
小泊から半島先端の龍飛岬までの風光明媚で急峻なワインディングロードで、途中の展望スポット眺舞台では、津軽半島を一望できるほか、天候がよければ北海道の松前半島も一望できます。



竜泊ライン(七ツ滝)
竜泊ラインにある美しい七段の滝である七ツ滝は、訪れる人を魅了してやまない荘厳な佇まいがありあり、小泊十二景の一つに数えられています。



四季草花障子
四季の草花によって、季節の移ろいを表現するステンドグラスとなっています。春のモクレンを挟んで、左に夏のアジサイ、右の秋の小豆が配されており、背面の庭園を借景することで、四季折々の景観がステンドグラスをとおして映し出されます。



水辺の情景
庭園の池泉には、初夏ショウブが咲き誇り、カワセミが飛来します。その情景を切りとったと考えられる川柳にカワセミ、ショウブといった水辺の生き物をモチーフにしたステンドグラスとなっています。



十三湖景観
古来多くの人々や物資が行き交った十三湖の景観をモチーフにしたステンドグラスになっています。かつて、宮越家から見えたであろう風景を形にしたとも考えられています。



旧大石武学流庭園
比較的石の規模が小さいこと、築山や池泉を欠くシンプルな構成であることなどから、初期の大石武学流庭園と推定されています。



新大石武学流庭園「静川園」
青栗石で池を表現した枯池と湧水を利用した池泉から構成される大石武学流庭園で、離れ「詩夢庵」とともに整備していたものです。

大正浪漫かほるステンドグラス宮越家
「離れ・庭園」や太宰の小説「津軽」の
舞台などがある中泊町の文化・観光を漫遊する。



中泊町の新特産品をめざして

菊芋、干餅、さくらんぼ、ブルーベリー、わさび

青栗石焼酎 好評発売中

事務局・竹内組農事部
北津軽郡中泊町大字吉野字福泊23番地
TEL: 0173-57-2705
FAX: 0173-57-4974

竹内組HP
http://www.takeuchigumi.com
たけちゃんさくらんぼ農園HP
https://www.takechan-farm.jp/